

施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成	
めざすまちの姿	○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。 ○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。 ○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。	
施策	(1) すべての子どもと家庭への支援	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	－

施策の方向性	○子どもの人権擁護を推進します ○すべての子どもと家庭に対する妊娠期からの切れ目のない子育て支援に取り組みます ○様々な困難などで配慮が必要な子どもと家庭への支援の充実を図ります ○子どもの貧困の連鎖を防止するため、教育、生活、就労などにおいて地域との連携を含め、子どもや家庭への支援に取り組みます									
施策を構成する主な事務事業	ファミリーサポートセンター事業				子ども家庭支援センター事業					
	母子等福祉総務事業				次世代育成支援行動計画等推進事業					
	ひとり親家庭生活学習支援事業				子どもの権利サポート委員会事業					
	児童虐待防止施策推進事業				子ども総合相談事業					
実施した主要内容	子どもの権利サポート委員会による相談、就学前子育て相談、子ども総合相談など、様々な困難を抱える子どもや家庭からの相談を受け、関係機関と連携して支援したほか、児童虐待の早期発見、早期対応、再発防止に取り組んだ。 ひとり親家庭への支援として、母子父子自立支援員による相談や法律相談をはじめ、自立支援教育訓練給付や高等職業訓練促進給付、ひとり親生活学習支援などの様々な取組を実施した。 令和7年4月を始期とする子ども施策の総合的な計画「宝塚市こども計画 たからっ子「育み」プラン」を策定した。									
成果指標	①	指標名								めざす方向性
		子どもには「生きる」「守られる」「育つ」「学ぶ」「参加する」権利があることを知っている」と回答した子ども（中学2年生）の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	-	50	-	-	-	-
				実績	-	47.2	-			
		達成状況とその理由	R6年度は計画の策定時期ではないためアンケートを実施していないが、R5年度のアンケートでは目標を達成することができなかった。子どもの権利について周知啓発をはかっていく。							
	②	指標名								めざす方向性
		宝塚市の子育て環境について、「子育てに関する相談がしやすい」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	23.7 (H30)	目標	-	23.7	-	-	-	-
				実績	-	16.9	-			
		達成状況とその理由	R6年度はアンケートを実施していないが、R5年度のアンケートでは目標を達成することができなかった。要因として相談したい時に相談窓口などの情報が十分に届けられていないことなどが考えられる。							
	③	指標名								めざす方向性
		児童虐待管理ケース終了率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	45	目標	50	50	50	50	50	50
				実績	42	48	42			
		達成状況とその理由	対応困難ケースが多く、継続的支援が必要な状況のケースが多くあったため、目標を達成することができなかった。							
	④	指標名								めざす方向性
		ひとり親家庭生活学習支援事業利用率								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	40.2	目標	32.7	32.7	32.7	32.7	32.7	32.7
				実績	31.3	32.5	32.2			
		達成状況とその理由	概ね目標を達成した。							

担当部局 評価	B	評価の 理由	成果指標における目標を達成することはできなかったが、子どもの権利サポート委員会では、子ども自身の悩みや心配ごとの相談を受け調整活動を行ったほか、ひとり親家庭が抱える課題に対応する法律相談やひとり親家庭の子どもに対し貧困の連鎖の防止や子どもの生活の向上という観点から学習支援を行った。また、子ども総合相談では、様々な相談を受け止め、関係機関と連携しながら切れ目のない支援につなげることができたほか、児童虐待への対応についても、関係機関と連携して取り組むことができた。このように施策の推進に向けて様々な取組を着実に推進していることから、B評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	子どもがひとりの人間として尊重され成長していくには、生まれ育った環境によってその将来が左右されず、子ども自身の権利が守られ、意見を表明する場を確保する必要がある。貧困等の環境による教育の格差を縮めるための取組や、子どもの意見表明の場、「子どもの権利」の認知が広がるように周知・啓発に取り組む。 子どもを取り巻く社会環境が複雑になる中で、子どもやその家庭が抱える困り感の内容や程度は、深刻なものから本人が相談するほどではないと思うものまで多様である。児童虐待管理ケース数は増加しており、迅速かつ適切に対応するため、関係機関と連携しながら取り組む。一方で、子育てで抱える小さな疑問や不安、相談先に迷うような悩みなどについても幅広く受け止め、早期に支援につなげることで、問題の深刻化を予防する必要がある。このため、子ども総合相談を引き続き実施するとともに、相談窓口の周知や身近に相談できる場の充実なども含めて、関係機関と連携しながら切れ目のない支援に取り組む。		
総合評価	・児童虐待への対応については、学校現場・教育委員会をはじめ関係機関との迅速な連携が求められる。引き続き、重大事案等の発生を防ぐため関係機関と連携しながら早期発見に努めるとともに相談対応・啓発を行なっていく。 ・子ども総合相談については、学校など関係機関との連携は進んでおり、相談対応の質をさらに高めるよう関係機関との情報共有を密にし、連携を進めていく。		

施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成										
めざすまちの姿	○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。 ○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。 ○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。										
施策	(2) 子育てと仕事の両立支援										
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり					－					
施策の方向性	○待機児童解消のための施策を進めるとともに、一時預かり事業や病児保育事業などの多様な保育施策に取り組みます ○放課後の健全育成の場の確保に向け、放課後児童対策に取り組みます										
施策を構成する主な事務事業	地域児童育成会事業					市立保育所保育実施事業					
	病児保育事業					指定保育所助成金					
	民間放課後児童クラブ運営支援事業					私立保育所助成金					
	私立保育所誘致整備事業										
実施した主な内容	・ 保育施設の定員拡充に向けた認可保育所開設準備 ・ 放課後児童健全育成事業の待機児童対策として民間放課後児童クラブ開設準備 ・ 病児保育事業を2施設で実施（継続） ・ 一時預かり事業を16施設で実施（継続） ・ 5施設を市指定保育所に指定し多様な保育ニーズの受け皿として確保（継続）										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		「子どもの面倒を見てくれる保育所、放課後児童クラブに入所することができない」と回答した就学前児童保護者の割合									↓
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	14.9 (H30)	目標	－	0	－	－		0	
				実績	－	11.3	－				
		達成状況とその理由	次世代育成支援行動計画の策定期間ではないため、アンケートを実施していないが、現計画の中で待機児童解消を目指し、取り組みを進めている。								
	②	指標名									めざす方向性
		保育施設の待機児童数									↓
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	－	目標	0	0	0	0		0	
				実績	0	0	0				
		達成状況とその理由	認可保育所の定員枠を拡充してきたことで、待機児童数を0とすることができた。								
	③	指標名									めざす方向性
		放課後児童健全育成事業の低学年の待機児童数									↓
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	51	目標	0	0	0	0		0	
				実績	96	49	152				
		達成状況とその理由	年度内に民間放課後児童クラブの開設を予定していたが、設置場所の選定が難航し、開設できなかったこと、また校区によって想定を上回る申し込みがあったことなどから目標達成ができなかった。								
	④	指標名									めざす方向性
		「子どもの面倒を見てくれる保育所、放課後児童クラブに入所することができない」と回答した低学年児童保護者の割合									↓
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	7.4 (H30)	目標	－	0	－	－		0	
				実績	－	8.5	－				
		達成状況とその理由	次世代育成支援行動計画の策定期間ではないため、アンケートを実施していないが、現計画の中で待機児童解消を目指し、取り組みを進めている。								

担当部局 評価	B	評価の 理由	成果指標②は就学前児童数の動向とこれまでの定員拡充策の継続により目標を達成した。また成果目標①は目標には達していないものの、認可保育所が入所しやすくなったことで、目指す方向には進んでいる。③④についても目標は達成できていないが、年度末に民間放課後児童クラブの選定が完了し、令和7年度4月から開設できていることから、待機児童対策は進んでおり、施策の方向性として、概ね目指す方向には進められていることからB評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	保育所については、認可保育所の定員枠を拡充してきたことで、目標どおり待機児童を0人とすることができた。就学前児童数は減少しているものの保育ニーズは依然として高いため、入所希望とのマッチングを丁寧に行い、安心して子育てができる環境を整えていく必要がある。 放課後児童クラブについては、校区ごとで申請者数も異なり、定員に満たない校区もあれば、待機児童が発生する校区もあるなど、ニーズに対応しきれていない状況にあるため、引き続き保護者ニーズを分析し、効果的な待機児童対策を検討していく。		
総合評価	・保育所については、共働き家庭の増加により保育所のニーズが増えてきたが、一方で将来的な少子高齢化を踏まえると保育所の新規設置は現実的ではない。今後は市立幼稚園を含めた未就学児童に関する施策を広く考えていく必要がある。 ・放課後児童クラブについては、放課後の児童の居場所づくりに関する施策全体を見の中で整理が必要。営利企業が学童に参入できるような仕組みを早急に導入したうえで、待機児童の解消に繋がる持続可能な施策展開を行っていくべき。		

施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成	
めざすまちの姿	○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。 ○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。 ○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。	
施策	(3) 安全・安心の子育て環境づくり	
総合戦略での位置付け	－	－

施策の方向性	○子育てしやすい生活環境づくりに取り組みます ○子どもの安全・安心の確保に取り組みます										
施策を構成する主な事務事業	青少年補導事業					青少年センター運営事業					
	青少年相談事業										
実施した主要内容	青少年の健全育成・非行防止を目指し、関係機関と連携し、各種活動を実施するとともに、青少年に悪影響を及ぼす有害環境の浄化に努める活動を行った。 また、子どもの心を理解する講座の開催や青少年や保護者の悩みについての相談に応じ助言を行い、関係機関との連携による継続的な指導も行った。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		「子どもに対する犯罪や事故が少ない」と回答した市民の割合									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		%	26.0 (H30)	目標	-	29.9	-	-	-	-	
				実績	-	26.6	-				
		達成状況とその理由	R6年度は計画の策定時期ではないため、アンケートを実施していないが、現計画の中で青少年の健全育成・非行防止を目指し、取り組みを進めている。								
	②	指標名									めざす方向性
		関係機関と行った補導回数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		回	-	目標	10	10	10	10	10	10	
				実績	24	17	19				
		達成状況とその理由	目標を達成することができた。								
	③	指標名									めざす方向性
		補導委員街頭補導活動実施回数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		回	-	目標	1104	1104	1104	1104	1104	1104	
				実績	838	1804	808				
		達成状況とその理由	別途実施している「声かけ」に注力したことで、こちらの活動は目標を上回ることはできなかったが、各班積極的に補導活動を行うことはできた。								
	④	指標名									めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
				目標							
				実績							
		達成状況とその理由									

担当部局 評価	B	評価の 理由	広域化する青少年活動に対して、警察、他市青少年センター等関係機関と情報を共有し、連携して活動できた。青少年補導委員による積極的な補導活動もあり、改善を図っていることからB評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	本市の子ども施策は、保育など子育て支援サービスを充実するだけでなく、地域で暮らす子ども、その子どもを育む家庭を、教育、子育て支援、コミュニティ、保護者の就業・雇用、生活環境、若者の自立支援などの面から、総合的に応援する地域づくりを進めようとするものである。そのために、次世代育成支援行動計画を策定し、5か年の計画に掲げた取組を推進している。コロナ禍による生活様式の変化もあり、地域の人間関係が希薄となっているほか、インターネットからもたらされる有害環境の影響など、子どもを取り巻く環境も変化している。 令和7年4月を始期とする宝塚市こども計画 たからっ子「育み」プランでも、安全・安心の環境づくりを施策と位置づけ、引きつづき実施していく。 また、地域とともにより一層の防犯活動を推進するため、青少年センターでの補導事業などを通じ、子どもを犯罪被害から守るための活動を継続して実施する。		
総合評価	・これまで補導委員が担ってきた青少年の「健全育成・非行防止」については、近年では「児童への見守り」にシフトしつつある。当該事業はこれまで教育委員会が中心に担ってきたが、市長部局における防犯施策や子ども施策等と連携し、時代に合わせた事業展開を検討していく必要がある。		

施策評価表

施策分野	4-1 児童福祉・青少年育成	
めざすまちの姿	○意見表明も含めた子どもの権利が守られ、子どもの最善の利益が実現できている。 ○子どもが、豊かな自然や文化芸術に触れ、他の世代や地域・社会と関わり、たくさんの遊びや学びを経験し、心豊かに成長している。 ○妊娠期からの切れ目のない支援により、家庭環境や経済的状況に関わらず、誰もがゆとりを持って、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っている。	
施策	(4) 家庭や地域の子育て力の向上と子どもの社会参加の促進	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	ー

施策の方向性	○家庭や地域の子育て力・教育力の維持向上を図ります ○子どもの居場所の更なる充実を図ります ○子どもの意見を生かす子ども参加型のまちづくりに取り組みます ○青少年の孤立を防ぎ、自立と就労を支援します											
施策を構成する主な事務事業	子ども議会事業					青少年育成事業						
	家庭教育推進事業					児童館運営事業						
実施した主要内容	妊娠期から思春期まで成長過程別の親育ち講座を実施した。 各地域児童館・子ども館を子どもの居場所として健全育成に努めるとともに、地域における子育て支援拠点と位置づけ、児童館運営事業を実施した。また、児童館のない小学校区には児童厚生員が出向き、出前児童館を開設した。 子どもの意見表明に関しては、第２３回宝塚市子ども議会を開催し、市内の小・中・高等学校に所属する１６名が提案や質問などを発表する機会を設けた。											
成果指標	①	指標名									めざす方向性	
		「地域で子育てを温かく見守る雰囲気がある」と回答した市民の割合									↑	
		単位		現状値 (R2)			R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%		31.0 (H30)		目標	-	32.7	-	-	-	
						実績	-	29.2	-			
		達成状況とその理由	R6年度は計画の策定時期ではないため、アンケートを実施していないが、R5年度実績では目標を達成することができなかった。									
	②	指標名									めざす方向性	
		中学２年生アンケートで「宝塚市が好き」と回答した人の割合									↑	
		単位		現状値 (R2)			R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%		87.4 (H30)		目標	-	89.7	-	-	-	
						実績	-	88.2	-			
		達成状況とその理由	R6年度は計画の策定時期ではないため、アンケートを実施していないが、R5年度実績では目標を達成することができなかった。									
	③	指標名									めざす方向性	
		18歳未満の子どもの人口1人当たりの児童館・出前児童館利用回数									↑	
		単位		現状値 (R2)			R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回		-		目標	2.48	2.76	3.13	3.6	3.6	
						実績	2.7	3.06	3.6			
		達成状況とその理由	コロナの影響も無くなり、利用回数は増加傾向にある。									
	④	指標名									めざす方向性	
		子ども議員から提案のあった事業のうち未着手の件数									↓	
		単位		現状値 (R2)			R4	R5	R6	R7	R8	R9
		件		-		目標	0	0	0	0	0	
						実績	(7)	0	1			
		達成状況とその理由	提案のあった２１事業のうち未着手が１件であった。実現が難しい事業であっても検討や研究を行うなど子どもの意見を生かす工夫が必要である。									

担当部局 評価	B	評価の 理由	家庭や地域の子育て力・教育力の向上に向けた子育て支援事業や子どもの居場所として児童館を安定して開設できた。子どもの意見を生かす子ども参加型の取組として子ども議会を開催し、子どもたちから市への提案を行ったが、提案事業のうち未着手となったものがあった（成果指標目標未達成）ことからB評価とする。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	子どもの居場所の充実を図る上で、新規施設の設置は難しく既存の居場所（児童館等）を安定的に運営していく必要がある。 子どもの意見を生かす子ども参加型のまちづくりの取組として子ども議会を開催しているが、3年で市内の小中高を1巡する仕組みとなっており、子どもが意見を表明する取組としてはさらなる取組を検討する必要がある。また、現状では若者に特化した意見を表明する仕組みがないことから、仕組みづくりについて検討を進めるとともに、若者の社会参画を促進する取組についても検討を進める必要がある。		
総合評価	・地域における子どもの居場所づくりに関しては、子ども家庭支援センターが司令塔となるのが理想である。 ・地域の子どもの居場所は児童館だけではなく、近所の公園や図書館といった、他の公共施設も居場所となりえるので、市全体の概念として考えていくべきである。		

施策評価表

施策分野	4-2 学校教育	
めざすまちの姿	○学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓(ひら)く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切にする心が育まれている。	
施策	(1) 子どもの「生きる力」の育成	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	ー

施策の方向性	○子ども一人ひとりが大切にされ、共に育つ教育を進めます ○学ぶ意欲を高め、確かな学力の定着を図ります ○心身ともに健やかな子どもを育てます ○命の大切さや多様性について理解し、思いやりの心を持つ子どもを育てます ○時代に対応できる子どもを育てます ○ことばを大切にし、感性豊かな子どもを育てます	
施策を構成する主な事務事業	学力向上推進事業	人権教育推進事業
	学校保健事業	学力調査事業
	特別支援教育推進事業	学力向上推進事業
	部活動推進事業	教育相談事業
	子ども支援事業	
実施した主な内容	子ども・保護者対象の面談、特別支援学級の環境整備、中体連市内大会での看護師派遣、人権講座の実施、サイエンスサポーターや心理サポーターの派遣など	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		中学2年生における新体力テストの結果（全国平均を上回る種目数：男女計16種目）								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		種目	4 (R1)	目標	8	8	8	8	8	8
				実績	3	2	6			
		達成状況とその理由	例年に比べ数値は伸びているが、個人の身体能力の高さなのか、中学校の指導によるものか、その理由については来年度以降の結果をみてからの判断となる。							
	②	指標名								めざす方向性
		新規不登校児童生徒出現率								↓
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	1.56	1.24	1.20	1.34		
				実績	1.24	1.20	1.34			
		達成状況とその理由	全国的に不登校が増加し続ける中、本市においても不登校の児童生徒数が増えている。新規不登校出現率を抑えるために、更なる取組が必要である。							
	③	指標名								めざす方向性
		全国学力・学習状況調査の学習活動におけるICT機器活用に関する質問に対して「分からないことがあった時に、PC・タブレットなどのICT機器を活用してすぐに調べる」と回答している児童の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	-	目標	94.4	95.1	92.1	国平均以上	国平均以上	
				実績	90.4	94.2	88.9			
		達成状況とその理由	国比約-3ポイントと国平均程度ではあるものの、主体的に学ぼうとする態度は生きる力の重要な要素であることから、今後の指標の向上を目指してICT機器の効果的な活用に関する取組を進めていく。							
	④	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
				実績						
		達成状況とその理由								

担当部局 評価	B	評価の 理由	新体力テストの結果は、例年に比べて実績値が伸びているが、対象生徒の個々の身体能力が高かったのか、中学校における指導の成果なのかは、来年度以降の状況を見てみないと判断が難しい。ICT機器活用については、児童生徒によるタブレット等の操作にも慣れが見られ、学習活動にICTを取り入れる機会が広がってきたが、学びの質の向上につながるよう、目的に応じた効果的な活用の工夫と実践的な研修の充実が求められる。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	生きる力を育むには、学校での学びを日常生活で活用したり、家庭での経験を学校生活に活かすことが大切である。そのため、学校や友達のこと、地域や社会の出来事などを家庭で伝えるためのコミュニケーション能力、ルールや規則を守る規律性、最後までやり抜く忍耐力、地域や社会に貢献しようとする姿勢は数値で図ることができない能力で、学校だけでなく、家庭や地域と連携して育んでいく必要がある。 指標①については、中学校になってからの取組では遅いこともあり、令和6年度より市の事業として、小学校の教職員を対象に大阪体育大学の准教授を講師として招聘し、年4回研修を行い、小学校での体育の指導力の向上を行っている。指標②については、引き続き、不登校児童生徒の居場所づくりに努め、適切な支援をしていくことが大切である。指標③については、学習活動におけるICT機器活用には、まず教員がICTを活用していくことが必要である。そこで、教員の活用能力について、アンケートを実施し把握するとともに、各学校の課題に応じた達成目標を設定し、推進できるよう指導主事による校内研修など個別の支援を行っている。引き続き、個別の支援、また教育総合センターで実施しているスキルアップのための研修などの支援を行う。		
総合評価	・学校教育において、包括的性教育を進め、社会的な固定観念や偏見に縛られず、自分らしく生きるための力を育む教育を目指すことが重要である。 ・ICT支援の教育に関しては、特に生成AI分野の著しい発展に伴い、求められるスキルが変容しているとも考えられる。プログラミング学習そのものよりも、実社会においてはAIに対する適切な指示を行うための論理や、他者とのコミュニケーションスキルを養うことが重要になっているのではないかと。国の方針よりも先取りで、真に必要な教育研究をしても良いのではないかと。 ・教育相談事業については、市長部局における子ども相談やケース対応等との関りも多く、連携を図っているところであり、今後も情報共有を密にし、連携を進めていく。		

施策評価表

施策分野	4-2 学校教育	
めざすまちの姿	○学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓(ひら)く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切にする心が育まれている。	
施策	(2) 学校園、教職員の教育力の向上	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	－

施策の方向性	○いじめや体罰、ハラスメントを根絶します ○学校園の組織の充実を図ります ○学校教育を担う人材の育成に努めます ○安全・安心な学校園の整備を進めます ○非常時を含め時代に応じた教育環境の整備に努めます											
施策を構成する主な事務事業	幼稚園運営事業					保幼小中連携教育推進事業						
	研究・研修事業					教職員総務事業						
	生徒指導支援事業					小学校施設整備事業						
	中学校施設整備事業											
	中山台地区教育環境適正化事業											
実施した主要内容	空調設備の整備、保幼小中特別支援学校合同研修会及び管理職や職員を対象にした研修会の実施、生徒指導連絡協議会の開催など											
成果指標	①	指標名									めざす方向性	
		全国学力・学習状況調査で「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」と回答した生徒の割合									↑	
		単位		現状値 (R2)			R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%		72.4 (R1)		目標	82.6	80.3	77.5	国平均以上	国平均以上	
						実績	78.8	77.3	74.5			
		達成状況とその理由		実績値は、目標値を下回っており、生徒自身の自身感情を高める取組が必要である。								
	②	指標名									めざす方向性	
		全国学力・学習状況調査で「先生はわたしの良いところを認めてくれていると思う」と回答した生徒の割合									↑	
		単位		現状値 (R2)			R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%		-		目標	39.9	40.0	44.2	国平均以上	国平均以上	
						実績	34.6	29.2	35.0			
		達成状況とその理由		令和5年度より実績値はあがっているものの、全国平均との開きは大きい。生徒の自尊感情を高める取組が必要である。								
	③	指標名									めざす方向性	
		学校施設長寿命化計画に基づく事業実施率									↑	
		単位		現状値 (R2)			R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%		0		目標	32.9	49	62.9	80.4	91.6	100
						実績	26.6	42.0	62.9			
		達成状況とその理由		当初計画から実施を変更したものもあったが、目標値を達成することができた。								
	④	指標名									めざす方向性	
		全国学力・学習状況調査で「学校に行くのは楽しいと思いますか」と回答した生徒の割合									↑	
		単位		現状値 (R2)			R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%				目標	45.8	43.3	43.5	国平均以上	国平均以上	国平均以上
						実績	52.7	51.1	48.9			
		達成状況とその理由		各学校において、宝塚市いじめ問題再発防止に関する行動計画に基づいた取組を推進することで、生徒にとって安全で安心できる学校環境づくりに努めている。								

担当部局 評価	B	評価の 理由	指標③については、目標値を達成したが、指標①、②ともに目標値を下回る。特に指標②については、本市の実績は昨年度を上回ったが、全国平均を大きく下回る。今後も目標に届くように努力をしていく必要がある。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	子どもがいきいきと育つために、良い学びを実現することが重要である。そのために目指すべき教育の姿、学校の姿、子どもたちの姿、教職員の姿を掲げ、関係者が共通の目標に向けて日々取り組むことが必要であり、そのために目標に掲げた姿の実現に向けた教職員の資質、能力の向上に資する研修を積み重ね、学校園における教育環境の整備を計画的、継続的に実施することが必要である。 指標①、②は、本市の学校で起きた重大事態を受けて設定したものである。令和2年度より、毎年12月をいじめ防止月間と定め、一人一人の子どもたちが尊重され、主体的、自発的な活動を通して子どもたちが互いに認め合い、いじめをなくす学校・学級づくりにつなげるための取組を進めている。小学校では、人権月間と合わせ児童会が中心となり「やさしいことばがけをしよう」という生活目標をたて取り組んだり、中学校では、学年ごとに「相手がうれしい話の聴き方」の動画発表をしたりなど、各学校においてもいじめ防止にかかわる取組を行っている。一方で、指導をする場面が多いの現状もあり、子どもたちは認められるより指導されると感じる割合が高くなる傾向がある。今後も、宝塚市いじめ問題再発防止に関する基本方針、宝塚市いじめ問題再発防止に関する行動計画に基づき取組を強化していく。 指標③については、今後も宝塚市学校施設長寿命化計画に基づき事業を進めて行く。		
総合評価	・学校施設の工事入札に関しては、人材不足で企業が中々応札出来ない状況が続いており、包括的な委託や件数をまとめる努力を今後とも行う必要が出てくる。 ・子どもが減少していく中であっても、小学校はまちの象徴として地域に開かれている状態が望ましいことから、校区の統廃合は戦略的に行っていただきたい。 ・子どもの教育として、探求学習も必要だが、基本は義務教育の基本たる基礎学力の向上が適切に出来ているかどうかである。子どもの発達是人それぞれであり、的確な教え方ができれば子どもは成長できるはずである。学ぶ楽しさに、いかに気づいてもらうかが大事である。		

施策評価表

施策分野	4-2 学校教育	
めざすまちの姿	○学校・家庭・地域のつながりの中で、子ども一人ひとりが大切にされ、未来を切り拓(ひら)く子どもの生きる力やふるさと宝塚を大切に作る心が育まれている。	
施策	(3) 市民全体による子どもの支援	
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり	－

施策の方向性	○家庭・地域と連携し、子どもの発達を支援します	
施策を構成する主な事務事業	トライやる・ウィーク推進事業	小学校体験活動事業
	地域学校連携協働推進事業	
実施した主な内容	中学校 2 年生のトライやる・ウィークの実施、小学校 5 年生の自然学校や 3 年生の自然体験学習の実施、TAKARA っ子 いいききスクール推進事業でみんなの先生の招聘など	

成果指標	①	指標名								めざす方向性
		学校支援ボランティアの活動回数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		回	6882	目標	前回値以上	前回値以上	前回値以上	前回値以上	前回値以上	前回値以上
		実績		8079	8521	9878				
		達成状況とその理由								
	②	指標名								めざす方向性
		「地域全体で子どもの育成に取り組んでいると思う」と回答した市民の割合								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		%	－	目標	前回値以上	前回値以上	前回値以上	37.5	前回値以上	前回値以上
		実績		－	30.1	－				
		達成状況とその理由								
	③	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
		実績								
		達成状況とその理由								
	④	指標名								めざす方向性
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
				目標						
		実績								
		達成状況とその理由								

担当部局 評価	B	評価の 理由	コミュニティスクールを導入して、3年目を迎え、学校運営協議会等の活動も少しずつ活発になっており、地域の力を借りながら、支援者の発掘が進んでいる。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	令和4年度より市内全小・中・特別支援学校において、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域の方に地域住民が参画できるコミュニティスクールを導入した。少しずつではあるが、各学校においても、地域を取り込んだの活動が進みつつある。しかし、地域の高齢化が進み、若年層の協力が得られにくい現状もある。教育委員会として、学校、地域と保護者のつながりをどのようにつくっていくのかを、有識者等の力をかりながら検討していく。		
総合評価	・地域環境学習に関しては、環境部や社会教育部と連携できれば相乗効果があるのではないかと。自然の家を活用するなど、西谷地域で先進的に進めていくことも可能性として考えられる。 ・学校運営協議会において、若年層の参加が課題と挙げられているが、具体的にどのような活動をしているのかといった広報活動に注力しつつ、ボランティア意識の醸成に努めていく必要がある。		

施策評価表

施策分野	4-3 社会教育										
めざすまちの姿	○誰もが生涯を通じて学ぶことができるとともに、学ぶことがその人の生きがいや心豊かな生活につながり、まちづくりにも生かされている。 ○様々な人がスポーツに親しみ、その活動がその人の生きがいや健康・体力づくり、青少年の健全育成などにつながっている。										
施策	(1) 生涯を通じて学ぶことのできる環境の充実										
総合戦略での位置付け	○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり						－				
施策の方向性	○学びをまちづくりに生かします ○魅力ある図書館づくりを進めます ○ふるさと宝塚の文化遺産を守り、活用します										
施策を構成する主な事務事業	桜が丘資料室維持管理事業					中央図書館管理運営事業					
	西図書館管理運営事業					歴史民俗資料館管理運営事業					
	公民館管理運営事業					文化財保護事業					
	学校支援地域本部事業					宝塚自然の家管理運営事業					
	社会教育推進事業					市史編集事業					
実施した主要内容	○社会教育推進では、地域での社会教育活動の支援や振興を図った。○公民館では、市民生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行った。○宝塚自然の家では、豊かな自然環境の中で野外活動などを通じて市民の心身の健全な育成を図った。○文化財保護ほか管理、運営事業を通じて市内の文化財の保護継承及び活用を図った。○市立図書館、市史資料室では、幅広く資料を収集、整理、保存し、多種多様な市民の要求に応え生涯学習を支援した。○学校支援では、地域の教育力を活性化するため地域全体で学校教育を支援する体制づくりを整備した。										
成果指標	①	指標名									めざす方向性
		公民館登録団体・グループ数（3館合計）									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		グループ	519	目標	580	610	640	670	700	730	
				実績	623	714	786				
		達成状況とその理由	多様な学習活動が活発化したことから、目標値を上回る成果となった。								
	②	指標名									めざす方向性
		市立中央図書館、西図書館の来館者数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	－	目標	610000	670000	680000	610000	610000	610000	
				実績	530010	564169	571749				
		達成状況とその理由	目標値に達することはできなかったが、図書館行事の増加に伴い、前年度を上回る来館者数となった。								
	③	指標名									めざす方向性
		宝塚自然の家利用者数									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	－	目標	10000	10000	10000	11000	11000	11000	
				実績	11267	11757	12850				
		達成状況とその理由	指定管理者による里山自然体験ができる複数のコンテンツの実施により、目標値を上回る利用者数となった。								
	④	指標名									めざす方向性
		公民館利用者数（3館合計）									↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9	
		人	231024	目標	280000	360000	360000	280000	325000	325000	
				実績	307743	325529	325476				
		達成状況とその理由	指定管理者と連携し、多種多様な学びの機会を提供できたことから、目標は達成することはできなかったが、前年と同様の利用者となった。								

担当部局 評価	B	評価の 理由	各社会教育施設において、各施設の特色を活かし、市民に対して多種多様な気付きと学びの機会を提供することができていたことから、前年度と同様ないしは上回る利用につながった。新たなコンテンツの開発だけでなく、SNS等を効果的に活用した広報などによるものが大きいと考える。しかし、目標値を上回ることができなかった成果指標もあることから、B評価とした。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	各施設においては、経年による施設の老朽化による不具合も生じていることから、利用者の利便性や安全で快適な活動に資する環境整備を行っていくため、一次的に施設を休館することも想定されることから、成果指標の目標を達成することができない可能性が高まるが、調査や修繕、改修工事を計画的に実施していく必要がある。 また、今後も継続して、市民の生活様式やライフスタイルの変化に加え、ニーズの機微を捉え、新たなコンテンツやプログラムの開発に努めていく必要がある。同時に、大学や企業などの包括連携協定を結んでいる団体などとの積極的な連携を行い、魅力的な事業展開の検討を行っていく。		
総合評価	・自然の家については、指定管理者の努力もあり、順調に事業が推進できていると考えられる。 ・図書館事業については、年間50万人以上の利用があるが、デジタル社会が進んだことにより、単なる図書の貸与にとどまらず、地域の居場所としての機能に拡がっていると考えられるため、今後の事業展開を検討していく。		

施策評価表

施策分野	4-3 社会教育									
めざすまちの姿	○誰もが生涯を通じて学ぶことができるとともに、学ぶことがその人の生きがいや心豊かな生活につながり、まちづくりにも生かされている。 ○様々な人がスポーツに親しみ、その活動がその人の生きがいや健康・体力づくり、青少年の健全育成などにつながっている。									
施策	(2) スポーツに親しむ環境づくりの推進									
総合戦略での位置付け	○基本目標 1 心がつながり、健康と安心を実感できるまちづくり					○基本目標 2 子どもがいきいきと育ち、子育て世代に選ばれるまちづくり				
施策の方向性	○市民のスポーツライフを支援します									
施策を構成する主な事務事業	ハーフマラソン実施事業				スポーツ施設管理運営事業					
	学校体育施設開放事業				社会体育振興事業					
実施した主要内容	○スポーツ施設の管理運営では、市民のスポーツ、レクリエーションの場の提供、スポーツに関する市民団体及び指導者の育成、市民スポーツ大会及び教室などを実施。○社会体育振興では、スポーツ推進審議会やスポーツ推進員などの活動を通じて、市民スポーツの振興のための事業を行った。○学校体育施設開放では、市内公立小中学校で学校教育に支障のない範囲で市民のスポーツ、レクリエーション活動の場として開放した。○ハーフマラソン実施においては、市民の協働と参画により全国から集う人々との交流を深めた。									
成果指標	①	指標名								めざす方向性
		市立スポーツ施設利用者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	795482	目標	950000	1000000	1300000	1300000	1300000	130000
				実績	1231685	1159475	1192478			
		達成状況とその理由	目標を高めたが、施設改修工事の実施に伴う利用休止などの影響から、目標の達成には至らなかった。							
	②	指標名								めざす方向性
		スポーツ関連イベント参加者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	400	400	400	400	400	400
				実績	205	356	259			
		達成状況とその理由	目標の達成には至らなかった。実施日当日の天候に左右されることや周知不足などの要因があると考えられる。							
	③	指標名								めざす方向性
		学校開放のべ利用者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	200000	200000	300000	300000	300000	300000
				実績	281140	297388	290349			
		達成状況とその理由	前年とほぼ横ばいの利用者ではあり、引き続きスポーツへの関心の高まりは窺える。しかし、目標を高めたことから、目標値の達成までには至らなかった。							
	④	指標名								めざす方向性
		宝塚ハーフマラソン大会申込者数								↑
		単位	現状値 (R2)		R4	R5	R6	R7	R8	R9
		人	-	目標	-	4700	4700	4700	4700	4700
				実績	-	3510	5263			
		達成状況とその理由	前年に引き続き、10マイルでの開催となったが、インフルエンサー等も活用したSNSによる発信も功を奏し、目標値を上回った。							

担当部局 評価	B	評価の 理由	各成果指標において、目標値をクリアには至っていない項目もあるが、前年並みの成果があったことに加え、今後も市民のスポーツニーズの把握に努め、健康増進や余暇の充足に資するプログラムの検討実施の余地もあることからB評価とした。
施策を進める上での課題とそれを踏まえた今後の取組	スポーツ施設の管理運営に関しては、施設、設備、備品の老朽化に伴う改修、整備が課題である。予算の範囲内で計画的に保全を行ってはいるが、老朽化に伴う緊急対応が必要な事案が生じているのが現状である。利用者が安全且つ快適にスポーツを楽しんでいくためには、抜本的な対策が必要である。 学校体育施設開放では、身近な場所で多様なスポーツを実施したいといったニーズに対応してくため、施設の利用調整などを行っていくことを検討する必要がある。 ハーフマラソンに関しては、県の河川改修に伴い、ハーフの距離が確保できない状況が令和9年度まで続くことが予定されており、長距離走者の満足度を補完できる企画を継続して検討していく。		
総合評価	成果指標①市立スポーツ施設利用者数③学校開放のべ利用者数に関しては、改修工事やR6年度の数値目標を上方修正していることにより、目標達成には至らなかったものの、一定水準は達成できていると評価している。 施策全体として、近年の気候変動に対応したスポーツのあり方を検討しつつ、広く市民がスポーツを楽しめる機会を創出していく。		